

天 文学という現実生活から離れた学問のように感じている方も多いと思いますが、「暦」もその分野といえ、少しは身近に感じていただけるかもしれません。国立天文台には「暦計算室」という部署があり、日の出や日の入りの時刻や二十四節気など様々な情報を提供しています。

今 でこそ時計やカレンダーが正確な日時があるようになったのは、人類の長い歴史の中では、つい最近のことといえるでしょう。人類が進化して、社会や国が成立していく過程で「暦」が必要となり、「暦」を司ることは権威、権力の象徴となっていたと考えられます。

暦 は、月の満ち欠けを基本とした考えられますが、これには問

題が生じます。月の満ち欠けによる1か月（朔望月）は約29・5日のため、実際の1年（太陽暦、約365・2日）に比べて年に10日程度、3年で1ヶ月程度の誤差が出てしまいます。これでは農業や漁業に支障がでるため、閏月（1年13ヶ月）を設ける必要がありました。このように日本では中国からの伝来を基に、太陽の観測等で修正（改暦）を加えた太陰太陽暦（旧暦）が長く使われてきました。現在は、明治5年に導入された太陽暦（明治5年12月3日が明治6年1月1日になりました）が使われています。

暦 は、形式上、朝廷から賜るの統一も進め、特定の藩や神社等だけが作れるようにしました。改暦の援助者だった保科正之公の功績でしょうか、会津藩は「会津暦

を作ることができ、関東北部から東北南部まで広く使われたといわれています。

会 津藩の藩校には天文台があり、その跡の露台が会津若松の竹田総合病院近くに、少し削られて小さくなったとはいえ、現存しています。このような天文台は江戸幕府の浅草天文台のほか、水戸藩、徳島藩、薩摩藩などにもありましたが、現存しているのは会津だけです。この「会津日新館天文台跡」は、日本天文学会によ



会津日新館天文台跡



復元された観台

る「日本天文遺産」の第1号として、藤原定家の「明月記」（様々な天文現象も記録されています）と共に平成31年3月に認定されています。また、復元観光施設の会津藩校・日新館には、往時の天文台（観台）も復元されています。このように会津の地では昔から太陽や星々の動きを観測していたのです。会津で美しい星空を仰ぎ見ることは、とても由緒正しいことかもしれません。

三野輪眞明（東亜天文学会会員）

ご意見・ご要望はコチラまで 商工観光課 電話 0241-62-6200

森林環境譲与税事業のご紹介

前号に引き続き、森林環境譲与税を活用した町の事業についてご紹介します。



きとね
Instagram
はコチラ



【問合せ】
農林課 林業振興係
電話 0241-62-6220

木育キャラバンinみなみあいづ

7月6日、7日の2日間に渡り、きとねにおいて「木育キャラバンinみなみあいづ」を開催しました。

木育キャラバンとは「移動型おもちゃ美術館」のことで、赤ちゃんから大人の方まで楽しめる木のおもちゃ200種類以上が、東京おもちゃ美術館からきとねに運ばれてきました。

当日は町民の皆さまをはじめ、約1,000人の方にご来場いただき、きとねに笑顔があふれる2日間となりました。

先月、きとねで開催された「木育インストラクター養成講座」において木育インストラクターを取得された皆さんも、木のおもちゃの遊び方などを子どもたちに教えていました。

今後も、町民の皆さまに木の温かみを感じていただけるイベントを企画してまいります。

きとね来館者数55,555人を達成!



きとね来館者数が55,555人に達しました。記念すべき55,555人目は、木育キャラバンinみなみあいづに遊びに来てくださった星さんでした。

星さんには、渡部町長より木製の認定証と記念品のグッズが贈られました。

